

広報



こじようめ

発行所 秋田県五城目町役場 編集 総務課 電話(018876)代 2100番
印刷所 湖東印刷所 電話(018876) 2430番 一部 5円
郵便番号 018-17 毎月 1日・15日発行

人口と世帯

世帯数	3,933	世帯
人口	17,779	人
内訳	男	8,596
	女	9,183

住民登録調 (48年9月末現在)

転入・転出の場合はかならず窓口へ届出ください。

実りの秋

考えてみたい農業を

▼ 農作を喜ぶ前に
千ばつに不作はないと言われるとおり、農作物が枯れてしまう程の干天にもめげず、今年の稲作は豊作となった。去る九月十七日日本町の農業委員会では稲作状況調査をおこなった結果、一〇三%という平年作を上回る指数が出た。各地区の内容はさまざまであるがコメをめぐる農業政策の矛盾はますます深まらうしている手離して喜ぶ前にそのあり方を根本的に洗い直して見る必要があるようだ。

▼ 異状気象で政策転換
本格的に生産調整が始ったのが四十六年度で、その年はまた冷害が追い打ちをかけたため全国的な減収につながった。そして、昨年はまた世界的な冷害で穀物が不作となり、今後とも寒害は許されないとされている。コメから他の作物へ転換を図りながら、五年間で過剰米を解消しようとした農林省は、こうした世界の食



糧供給の暗い展望の中で生産調整を解除した。「古米」「古古米」「古古古米」とコメを愚者呼ばわりし、豚のエサに、鶏の飼料にと主食の末期の症状に農民が肩身のせまい思いをしたのはつい昨日のでき事のようなものである。過剰米は、不安定な場当たり農政の落し子であったに。

▼ 下がる自給率
世界的に農産物の需要は、人口の増加や所得水準の上昇でますます増えていくものと予測されているが、わが国の場合、高い営農水準を支えてきた農民の生産意欲の減退で、その自給率が年々下がってきている。今後とも下降線をえがくものと専門家はみている。

重化学工業化に押しまくられている国民生活の基盤農業を、私達はこらでもう一度じっくりと考えてみたい。たった百グラム前後の豆腐や納豆の暴騰が、食生活をいかに不安なものにしたかを。

農作の喜びを詩うコンパイン〜谷地中であ

毎月八日の午後には、わずかに一時間半ばかりの例会を、待遠しくてならない顔が公民館に集まってくる。発足当時八人だったクラブが今では十四名に増えた。何時か朝のテレビで見たが、岡山県の久米南町では、さすが川柳の町と言われる程あって、駅や公園に於けるエチケットの立札や、通学路の交通指導など、すべて川柳で書かれてあったの思い出す。

私達の町にも、もっともっと沢山の柳が生れ、趣味を通じた明るい人間関係の和を広めてゆきたいものと思っている。



くらしと川柳
長町 鍋谷 福枝

会の中
に産声
をあげ
てから
約二才
半過ぎ
たばかり



九月定例議会二十九日終る

五一中第二サブ体育館建設等可決

補正額五千四百九拾二万二千元

五城日町議会九月定例会は、去る九月二十一日から二十九日までの日程でおこなわれ、廃棄物の処理及び清掃に関する条例制定について等十一案件で、九日間におわたる審議の結果原案通りの可決をみた。

このたびの定例会では、加賀谷町長の施政説明、議員各位の一般質問を通じて町づくりにビジョンが相当具体性を帯びたものになった。その一つに、開発センターの設置予定地場所、その二に五城目高校の移転先候補地、その三に隣町地区に関する条例制定等、長期構想の中における計画が、いよいよ肉づきはじめた感を深くする。

補正面では、五一中第二サブ体育館の建設費用などその額は、五千四百九拾二万二千元となり、既定予算を合すると、九億二百二万円となった。以下施政説明の概要、一般質問、議決案件の内容は次に示すとおりである。

本町の作況指数一〇三

秋田地方気象台開設以来の干天続きと、その後の雨により農地や河川護岸等に若干の災害があったが、本町は全般的に豊作型であり

九月十七日 農業委員会 調査した作況は一〇三の指数が出ている。

なお、本町における今年度の予算限度数量は、七千二百三十三万六千六百四十七円、おおよそ一億七千七百九拾二万二千元の所得増が見込まれている。

産業基盤整備

重点施策の一環であるが、園場事業は通称地工実施地区が六ヶ所あり面積は百十六ヘクタールにおよんでおり、現在八〇%の進捗率を示している。

長期計画では、昭和五〇年に五四・五〇%になって、五八・八%年度末におよび、四十八年度末には千四百四十五(水田面積千七百四十八ヘクタール)ヘクタール五・八%の進捗率を見込まれる。

山振補助事業の下山内橋を六百九十三万一千円で工事中であるが十月中には完成の予定である。

打込みが終つて、米の出荷期までには通行可能な状態にするため工事を急いでいる。

これで、四十三年度から四十八年度までに永久橋化された数は十一橋で、延長三〇八・五メートル工事費一億七千五百八拾八万四千円におよんでいる。

広域基幹林道・高い公益性を期待 待望の広域基幹林道(富津内台門前井川井内)昭和町上蛇川(秋田市黒川)が、八月二十四日富津内台を起点として、いよいよ着工した。延長一万八千メートル市員五メートル、総工費六億円、予定では、実施初年度は、延長七千二百メートル、三千五百万円となっている。

振興はかりでなく関係市町村の地域産業の発達として、また国道二八五号線のバイパス路線として極めて高い公益性を發揮するものと期待される。

次に町内における簡易舗装工事、町部川反線外十九路線三千八百七十九メートルを九百三十三万七千七百九拾二万二千元の進捗率をみていく。

環境美化・住民の理解、協力の高まり 「日本一きれいな町づくり」をめざして環境美化運動を展開してきたが、ようやく運動の定着してきた感じが、いよいよ、町ぐるみ大掃除作戦に呼応して、町ぐるみ大掃除の数が増加し、河川、側溝、公共施設等の清掃に大きな成果を取っている。

なお、ごみ収集については、新式脱水収集車の導入や焼却炉の大修理等住民サイドに立った改善を加えている。その結果、従来よりごみ容器類の利用がともに増加し住民の理解と協力の高まりが伺われる。

福祉と二才未満児での医療費 千八万二千元の実績

民生費の事業費は、三千六百六拾三万七千円で、九月十日現在の執行額は千五百八拾六万一千円、執行率五〇%となっている。

内訳(六月以降実施) カーパーラーの設置十二基 三拾九万五千元 第三回子ども祭典 三拾九万円 老人集会所設置 拾八万五千元 幼児プール設置 百二拾四万円 敬老会 九拾四万四千元

乳幼児医療費の無料化については、四月から県の二才未満児まで対象を拡大しているが、六月現在一・二才の合計件数が千八百七十九件、町民各位から大いに利用されている事を示している。

待望のし尿処理施設五十年計画に 市尿の処理については、広域行政計画の中における施設待ちの状態で、その間における投棄場所の確保に頭を悩ましてきたが、その必要緊急度を鑑み、川東郡地区町村が共同で四十九年度着工五十年度完成を目的に県当局にその計画書類を提出した次第である。

一 中、五小の選手大活躍 東北大会で初の栄冠に輝いた五一中男子バスケットチームは、全国大会でも、奮戦して第八位の好成績をあげ、日本全国にその名を挙げた。

一方五城目小学校の野球クラブが、全県小学校野球大会において抜群の強さを發揮して、見事全県制覇をした。

各児童生徒は、日頃の鍛錬の中から得がたい体験をして、誇りと自信を深めた事と思うが、これも町民各位のご支援による栄光である事を忘れてはならないと思つて

次に七月八日、第十二回全県実業団剣道大会が五小においておこなわれ、参加二十チームの熱戦が展開された。本町の教委チームはよくまとまりをみせ、見事初優勝の栄譽を勝ち取った。

青年海外に派遣 外国青年との交流を通じて、国際的な視野を広めることをねらいつ、今年度からあらたに予算化しているが、現在すでに、農村事情調査団として西ヨーロッパ方面へ一員、県主催の「青年の船」でソビエト方面に三名を派遣している。

石崎遺跡十月下旬調査再開 秋田県の歴史に重要な役割を果たしたとみられる、石崎遺跡の発掘は、昨年から本格的な調査に踏み切ったが、十月二十日頃から、この道の権威者、東北大学教授高橋富雄博士の指揮のもとで調査を再開するところになった。

調査費は県補助百万円をおおき二百五十万円が予算化されている。

一 一般質問 質し五城目高校の移転、その跡地利用、運動公園計画縮小にともなう代案、役場、公民館の建設予定地

れも町民に深い関係を持つものばかりなので、過去における役場移転のような轍(つづ)を踏まないように、大局的な見地に立ち、その機能が所期の目的を達成できるように勘案しながらやっていきたい。

高校の移転先について 過敷五城目高校のPTA等に、見地の移転先について純教育的な見地から討議を求めたところ、西野地区を候補地として指定してきている。

移転後の跡地利用について 幸いにして西野地区に決定した場合、現在使用地一方は町に払い、跡地利用に関しては結論を得ていないので、今後検討していきたい。

運動公園の計画変更について 運動公園の計画変更については当初の計画で屋内屋外の運動場の一体化を考えていたが、おおよそ半分の用地に併い、計画を分離して建てるのも一案であると考えている。

山村開発センターを運動公園内に 山村開発センターを公民館として生かすとともに、運動公園地内に建てざるを得ない見通しを持つて、最終決定までには、議会や各界のご意見を聴きながら結論を出していきたい。

な山村開発センターは、当初の七千万円から、経済事情の変動などから一億二千万円程度になるものと見込んでいる。 役場庁舎の建設場所 広域的な視点で

開発センターを運動公園地内に 水道会計純利益4百6拾7万1千円

運動公園の用地を一つの目安としながら、公共施設の整備箇所を決めていきたくて、と私自身受けたと聞いて、本町の役場庁舎の建設場所は隣接町村を考慮した時点で考えたらしいので、か、今後皆さんとよく相談しながら、配置のされたい場合、当然減歩率を補って余りあるものになると信じている。

・住宅難の解消となるか
町長：只今五城目町では、町部を中心として年間約三〇〇戸平均新築されている。従って住宅地の必要性は非常に強いものになっており、区画整理することで、宅地用地のかん和にはけい落な効果があるとみている。

・減歩率と整理後の土地価格は見合おうのか
町長：断言は避けるが常識的に申しあげて道路を整備し、宅地化された場合、当然減歩率を補って余りあるものになると信じている。

・議決された議案
議案第四十二号
五城目町廃棄物の処理及び清掃に関する条例制定について

町長：最近の国内外における経済的な変動の推移にかんがみ、財政的に大きな問題であります。本町の場合、資材入手には難儀を極め、若干工期のずれがみられるもの、特に大きな影響は受けていない。なお東北地方は積雪地帯なので繰り延べはしないようにと県と共に国の方へお願いしている。

町長：雨秋田の町村会でも、この問題が話題になっており、各町村均衡のないように検討しようとしており、更に関係者からのご要望もあったので町長も

質：農産近代化推進のため整地用機械を導入する考えはないか
町長：今後における圃場整備は二〇〇三〇ヘクターを見込んで、これに専用の整地用機械

質：保育園の三才児保育をどのように考えているのか？二年保育実施後に検討
町長：米年度の二年保育をすすめるため、いろいろ準備をすすめていますので、これを実施した後に、更に三才児保育の検討をさせていただきます。

町長：処理施設を大川地区に決定したということではありません。ただ地形的環境からして馬場目川沿線がよいのではないかと、この県側の指導機関の見解が示めされており、有力な候補地として浮び上がっている。南秋の町長は、あけて大森村内の敷地に実現を期しているが、見通しは明るくない。重要な問題です。議会のみなさんと、関係者各位とよく協議して決定したい。

以上が主な改正点であり、廃棄物の収集処理業者及び大掃除に関する規定は、改正前のものとはほぼ同様である。

議案第四十三号
五城目都市計画事業磯ノ目地区土地区画整理事業施行規程に関する条例制定について

本条例で規定する概要は、
・事業の名称及び事務所の所在地
・施行地区と事業の範囲
・費用の分担に関する事項
・土地区画整理審議会並びにその委員及び予備委員に関する事項等、土地区画整理法に規定された事項であります。

議案第四十四号
五城目町柔剣道場施設条例制定について

議案第四十五号
五城目町議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例制定について

議案第四十六号
五城目町特別職の職員給与並びに旅費に関する条例の一部を正改する条例制定について

以上が主な改正点であり、廃棄物の収集処理業者及び大掃除に関する規定は、改正前のものとはほぼ同様である。

議案第四十七号
五城目町特別職の職員給与並びに旅費に関する条例の一部を正改する条例制定について

議案第四十八号
五城目町手数料条例の一部を改正する条例制定について

議案第四十九号
昭和四十七年度五城目町水道事業会計決算認定について

議案第五十号
昭和四十七年度五城目町水道事業会計決算認定について

議案第五十一号
昭和四十七年度五城目町水道事業会計決算認定について

議員 (現行)

議員	月額 三五、〇〇〇円
副議長	月額 四〇、〇〇〇円
議長	月額 三七、〇〇〇円
議員	月額 四二、〇〇〇円
副議長	月額 四六、〇〇〇円
議長	月額 四〇、〇〇〇円

ため改めるものでアップ率は、一四パーセントとなっている。

支出総額 二千百三拾一万〇七百五拾五円

当期純利益 四百六拾七万一千三百八拾七円

次々資本取支では 収入はなく

支出
四百八拾一万一千九百三拾六円

年度損益勘定留保資金 三百一十九千二百三拾七円

繰越欠損金減少に伴う留保資金 百七拾九万二千六百九拾九円

で補てんしている。

利益剰余金 百五拾五万五千五拾七円

なり、これで長年問題でありました欠損金三百拾二万一千三百三拾円処理してはじめて剰余金が生じている。

補正予算の財源

●町 税	二千五百五万三千円
●繰越金	四百六拾一万円
●県補助金	二百二拾二万七千円
●起債	千四百九拾万円
●交通安全対策特別交付金	拾万六千円
●使用料手数料	八拾七万六千円
●国庫支出金	三拾三万四千円
●財産収入	六拾九万二千円
●諸収入	拾九万三千円
●寄附金減額	六万九千円

五城目町告示第十七号

公 告
都市計画法(昭和四十四年六月十五日法律第百号)第十七条第一項の規定により、五城目町都市計画用途地域案を、公衆の縦覧に供するのて、右のとおり公告する。
昭和四十八年十月一日
五城目町長 加賀谷力司

- 一、都市計画の種類
五城目町都市計画用途地域
二、都市計画を定める土地の区域
五城目町字石田六ヶ村塚原上町、下夕町、七倉、鶏ノ木の全部
五城目町字杉ヶ崎、羽黒前福、

第2回北日本川柳大会盛會裡に終る 五城目婦人會員の投句衆目的

去る9月16日、石川旅館を会場にして、第2回北日本川柳大会(第23回秋田県川柳大会)がおこなわれた。その参加者は北海道から京都まで145名を越える盛會振りで、会場は熱っぽい雰囲気包まれ、酒脱で気概に富んだ句が発表される度び毎にさかんな拍手が湧いていた。今大会の特長は、何となくとも婦人参加の多かつたこと、中でも川柳グループを作って日頃から勉強を続けている五城目婦人會員の活躍は「お見事」の一言に尽きた。

荷前、神明前、宮花の一部、五城目町高崎字雀籠下川原、田中小沼、下川原、八田、里下、中川原、広ヶ野の全部
五城目町高崎字前田、熊野台、岡谷地、中泉田の一部
五城目町上樋口字堂社の全部、五城目町上樋口字川原、向川原、根ノ木、樽沢、切通、中川原、屋岸の一部
富津内山下内字深堀、組田

高田、下川原、奈良時の一部
大川野字田屋下の一部
岡本台の一部
三、五城目町企画の縦覧場所
都町町役場企画管理室
四、案の縦覧期間
昭和四十八年十月十日から昭和四十八年十月二十四日まで
昭和四十八年十月二十四日まで
五、案の縦覧時間
午前八時半~午後五時まで

出かせぎ者を対象とした

モテル企業認定職業訓練実施
秋田県では出かせぎする方が將來技能労働者として就職することを容易にするため、県外での就職先

の事業所で働きながら週休二日制を活用し、事業内の認定職業訓練を受けられる制度を設けました。

募集人員
全県で二五〇名程度一定員に達し次第締切ります。
応募資格 十八才以上四十五才までの健康な男子
申込方法 申込並びに詳しいことは、五城目町出かせぎ相談所又は秋田公共職業安定所へ

- ▼ 席題 「のこのこ」
牛引いて行く子が蝶に追い越され
又見ると少し動いたかたつむり
リハビリの試歩を羨む麻痺の足
▼ 席題 「記者」
人間の恥部こきおろす記者或る日
記者の妻行き先き知らぬまな朝
記者ある日ほんとうに泣ける記事に会い
犯人の三等親まで記者は触れ
そっとしてほしい不幸へ記者が来る
▼ 席題 「影」
蛇の死の影蛇だけが居る影
正論を殺して大樹の影に居る
弾薬の影が化石となる墓場
▼ 課題 「雨」
死の灰を運んで西から雨が来る
木娘も嫁ぎ夫婦に冬の雨
手抜きした工事へ容赦ない豪雨
▼ 課題 「人のため」
席ゆずる少年もいて満ちた旅

- ▼ 課題 「男の子」
さよなら言葉男は喉へ呑む
僕だけと思う小指をからませる
▼ 課題 「斬る」
男斬って寡婦形見の子と生きる
因習の糸を女の斬る鉄
▼ 課題 「将棋」
名産の将棋を買ったハチマーン
持駒をうるさく聞いてる負持棋
▼ 課題 「光る」
まないたに朝の光を刺む妻
▼ 課題 「北限」
北限に国境のない魚の群れ
北限の父祖に築いた秘話を聞く
北限の海にかけての領土浮き
▼ 雑 詠
人形の手を抜けた花の性
歩くしか能ないロボの背に妻子
▼ 雑 詠
うなずいて乳房大きく返事する
決論を急ぐクバコをぬじ伏せる

- ▼ 課題 「男の子」
山崎 空華選
石川 富司
▼ 課題 「斬る」
和野 岳俊選
和野 士華
▼ 課題 「将棋」
山崎 空華選
石川 富司
▼ 課題 「光る」
和野 岳俊選
和野 士華
▼ 課題 「北限」
山崎 空華選
石川 富司
▼ 雑 詠
和野 岳俊選
和野 士華



開戦前後 ③ 小野 一

昭和十七年二月二〇日商工省令第四〇号で「繊維製品供給消費規則」が公布されている。この規則は、生活必需品である衣料品を最悪の場合であっても、その最低限度の供給を確保しようというのが、実態に即していわれたが、実際は一般家庭にまわらぬ繊維製品の底がみえてきたところから出たものだった。
この規則によって「衣料切符」の制度がはじまった訳である。商工省発行の衣料切符は甲種と乙種の二種類で、甲種八〇点、乙種百点となっていた。地方の町村では甲種であった。
切符の有効期限は一年、男女老幼の区別なく一人一冊で、家族間の融通は認められた。一冊といっても、粗末なズラ紙に粗末な印刷をした一枚を、二つ折りにしただけのもので、適当に切りはなして店に渡すようになっていた。粗末な紙も粗末な印刷も、人びとをみじめな気持ちにさせた。戦争の果てに同じくきかされたように国民のくらしは苦しくても石にかじりついては勝たなければならぬという「必勝の信念」に燃えてくるのだった。
衣料切符は二月一日から有効となったが、この二月二日は食糧管理法が公布された日。切符が使われるまでの二日間には、買いだめを防ぐために各種衣料品は休業状態となり、物資不足はますますひどくなった。十五年七月七日の奢侈品製造販売制限規則(七、七禁止令)による取りしまりはいよいよ強められている。そのために、たとえは金銀細工屋は休業同様、塗り物屋も同じころに追いこまれていた。呉服店以外の町の商店では、商店の前途に大きな不安を感じて、売ったもの上町下町の商店街はさびれる一方で、月日の市の日に近づいたが、不自然に思われるくらにぎわった。
呉服店では、衣料品、繊維製品を蔵の奥にしまいこむものもいて、ますます物資不足に拍車をかけた。また切符の整理など店の事務もはかたならぬ手間のかかる仕事であった。点数は次のようである。
和服 給48、単衣24、絵羽織34、裏付コート40、ズボン15、詰藍40、洋服 背広50、ズボン15、詰藍40、レインコート30、ワンピース15、ツイード12、国民服32、肌着 Yシャツ12、半袖シャツ6、足袋靴下2、ネクタイ、ハンカチ1、木綿糸一束1
このほか結婚する女子には衣料切符五枚、妊娠五ヶ月の婦人は一枚、水火災などの罹災五枚以内という具合に特別なケースも定められていたが、その中切符があつても品物がないうるようになつた。
この年は、輸送統制が強化された。バス事業と貨物自動車運送事業がそれぞれ統合されるようになった。これによって、トラック事業は秋田地区に秋田中央自動車貨物株式会社が発足し、五城目の業者佐藤宇一が統合された。バスは秋田中央交通株式会社が五城目軌道を中心にして設立充足した。
お願ひ衣料切符の実物がありましてら町史編さん委員会にお貸し下さい。

たために、たとえは金銀細工屋は休業同様、塗り物屋も同じころに追いこまれていた。呉服店以外の町の商店では、商店の前途に大きな不安を感じて、売ったもの上町下町の商店街はさびれる一方で、月日の市の日に近づいたが、不自然に思われるくらにぎわった。
呉服店では、衣料品、繊維製品を蔵の奥にしまいこむものもいて、ますます物資不足に拍車をかけた。また切符の整理など店の事務もはかたならぬ手間のかかる仕事であった。点数は次のようである。
和服 給48、単衣24、絵羽織34、裏付コート40、ズボン15、詰藍40、洋服 背広50、ズボン15、詰藍40、レインコート30、ワンピース15、ツイード12、国民服32、肌着 Yシャツ12、半袖シャツ6、足袋靴下2、ネクタイ、ハンカチ1、木綿糸一束1
このほか結婚する女子には衣料切符五枚、妊娠五ヶ月の婦人は一枚、水火災などの罹災五枚以内という具合に特別なケースも定められていたが、その中切符があつても品物がないうるようになつた。
この年は、輸送統制が強化された。バス事業と貨物自動車運送事業がそれぞれ統合されるようになった。これによって、トラック事業は秋田地区に秋田中央自動車貨物株式会社が発足し、五城目の業者佐藤宇一が統合された。バスは秋田中央交通株式会社が五城目軌道を中心にして設立充足した。
お願ひ衣料切符の実物がありましてら町史編さん委員会にお貸し下さい。

昭和四十八年度

循環器検診(高血圧症予防)実施

早期発見・早期治療
みんなで検診をうけましょう

「集団検診をいあわせな家庭に」
左記の日程によって循環器検診
を実施しますから、この機会に是非
受診されまうおすすめいたします。

一、申込期限 一〇月五日まで

二、申込先

五城目町役場保健衛生課
申込者数により、日時及び場所
等の変更する場合がありますが
申込者には実施前に要項で通知
します。

三、受診料金

一、二〇〇円ですが、町で八〇
円を補助しますので自己負担
は四〇〇円です。

四、検診内容

血圧測定、身体計測、尿検査、
心電心音図検査、眼底検査

五、日時及び場所

▽十月十五日(月)
・樋口、若城町、館町、中川原、
一番町、新町、川原町、古川町
午前九時～一〇時三〇分
五城目町役場
▽十月十七日(水)
・一般住民、役場職員
午前九時～一〇時三〇分
午後一時～三時
五城目町役場
▽十月十六日(火)
・田町、広ヶ野、希望ヶ丘、今町
御蔵町、小池町、仲町
午前九時～一〇時三〇分
五城目町消防署
▽十月十七日(水)
・長町、米沢町、築地町、畑町
午後一時～三時
五城目町消防署

保健衛生

十月の業務案内

保健衛生課 〇月の業務予定に
ついて左記の通りお知らせします
ので、積極的な参加と協力を
お願いいたします。

- ・一日 前九時半 結核精密検診
- ・二日 後一時 五城目保健所
- ・三日 後一時 種痘予防接種
- ・四日 後一時 種痘第一会議室
- ・五日 後一時 種痘第二会議室
- ・六日 後一時 種痘第一会議室
- ・七日 後一時 種痘第二会議室
- ・八日 後一時 種痘第一会議室
- ・九日 後一時 種痘第二会議室
- ・十日 後一時 種痘第一会議室
- ・十一日 後一時 種痘第二会議室
- ・十二日 後一時 種痘第一会議室
- ・十三日 後一時 種痘第二会議室
- ・十四日 後一時 種痘第一会議室
- ・十五日 後一時 種痘第二会議室
- ・十六日 後一時 種痘第一会議室
- ・十七日 後一時 種痘第二会議室
- ・十八日 後一時 種痘第一会議室
- ・十九日 後一時 種痘第二会議室
- ・二十日 後一時 種痘第一会議室
- ・二十一日 後一時 種痘第二会議室
- ・二十二日 後一時 種痘第一会議室
- ・二十三日 後一時 種痘第二会議室
- ・二十四日 後一時 種痘第一会議室
- ・二十五日 後一時 種痘第二会議室
- ・二十六日 後一時 種痘第一会議室
- ・二十七日 後一時 種痘第二会議室
- ・二十八日 後一時 種痘第一会議室
- ・二十九日 後一時 種痘第二会議室
- ・三十日 後一時 種痘第一会議室

軽自動車の検査のお知らせ

●昭和48年10月1日から軽自動車の検査が始まることになりました。検査は次のところで行ないます
秋田市幸内字イサノ137の1
軽自動車検査協会秋田事務所 (T 62-3270)

●現在ナンバーをつけて使用している軽自動車の検査を受ける期限は、軽自動車届出済証の届出年月日により次のようになっています。
この期限内に検査を受けないと使用できなくなりますのでなるべく早目に受けて下さい。

届出年月日	検査期限
41年12月31日以前	48年10月
42年1月1日から42年12月31日まで	〃〃11月
43年1月1日	43年7月31日
43年8月1日	43年12月31日
44年1月1日	44年4月30日
44年5月1日	44年8月31日
44年9月1日	44年12月31日
45年1月1日	45年3月31日
45年4月1日	45年6月30日
45年7月1日	45年9月30日
45年10月1日	45年12月31日
46年1月1日	46年3月31日
46年4月1日	46年6月30日
46年7月1日	46年9月30日
46年10月1日	46年11月30日
46年12月1日	47年2月29日
47年3月1日	47年4月30日
47年5月1日	47年7月31日
47年8月1日	47年10月31日
47年11月1日	48年1月31日
48年2月1日	48年4月30日
48年5月1日	48年6月30日
48年7月1日	48年8月31日
48年9月1日	48年9月30日

- 検査を受けると、検査標章(ステッカー)と検査証が交付されます。
検査標章は前面ガラスの中央上部に貼って下さい。検査証は、自動車に備えつけて下さい。
- 検査を受けるときは、次の必要になります。
現在ナンバーを使用している車
☆新規検査申請書
☆軽自動車届出済証
☆保安基準適合証(民間車検工場で整備した場合)
☆保険証明書(保険期間が2年超過)
☆印鑑
☆検査手数料600円(保安基準適合証提出は400円)
- 新たにナンバーをつけて使用する車
☆新規検査申請書
☆完成検査終了証(型式指定の新車)
☆使用車であることを証する譲渡証明書等
☆使用車住所を証する住民票等
☆保険証明書
☆重量税納付書(新車7,500円)又は非課税証明書(中古車)
☆印鑑
☆検査手数料600円(型式指定の車は400円)

行政管理局の行政相談

行政管理局では、行政に対する苦情の相談制度について広くみなさま方のご理解と認識を深めていただくため、全国一斉に来る十月十四日(日)、全国二十日(土)までの間「行政相談週間」を実施いたします。
みなさま方が、常日頃いだけおられる役所の仕事についてお困りのこと、納得いかないこと、希望することなどについて「無料」で「迅速」に、かつ「秘密」を守り、ていねいに相談に応じます。この期間中に当地域担当の行政相談委員の方が次の相談に応じますから、お気軽にお申し出ください。

- ・一六日 前九時 脳卒中予防検診
- ・一七日 前九時 消防署前(本町部)希望住民(対象)
- ・一七日 前九時 脳卒中予防検診

<国民年金>

国民年金の保険料は数回にわたり改正されておりますのでどの位の保険料が納付されているかを年度別内訳表でお知らせします。(昭和36年度から13年になります)

国民年金保険料年度別改正内訳表

年数	年度	35才以下	累計	35才以上	累計	摘要
1	36	1,200円		1,800円		35才以下100円 35才以上150円
2	37	1,200	2,400	1,800	3,600	〃
3	38	1,200	3,600	1,800	5,400	〃
4	39	1,200	4,800	1,800	7,200	〃
5	40	1,200	6,000	1,800	9,000	〃
6	41	1,500	7,500	2,100	11,100	42,1月から 35才以上200円 35才以上250円
7	42	2,400	9,900	3,000	14,100	〃
8	43	2,250	12,150	3,150	17,250	44,1月から 35才以上250円 35才以下300円
9	44	3,000	15,150	3,600	20,850	〃
10	45	4,800	19,950	4,950	25,800	45,7月から 一率 450円
11	46	5,400	25,350	5,400	31,200	〃
12	47	6,300	31,650	6,300	37,500	47,7月から 〃 550円
13	48	7,650	39,300	7,650	45,150	48,1月から 900円 予定

表で見るとおり納付期間中三十五才以下の保険料で納付した方は三万九千三百円、三十五才以上の保険料で納付した方は四万五千五百円より納付しておりますこととなります。

▼国民年金受給額の現行及改正予定について
下記の表のとおりになる予定です。

提出年金(定額分)		
納付年数	現行	改正予定
25年間納付	96,000円(月8,000円)	240,000円(月20,000円) 2倍半
10年年金 10年間納付	60,000円(月5,000円)	150,000円(月12,500円) 2倍半
5年年金 5年間納付	30,000円(月2,500円)	96,000円(月8,000円) 3.2倍



おしらせ

国保「被保険者証」

十月一日更新でお願い

先の町広報でもお知らせしていたように、国民健康保険の「被保険者証」が十月一日を期して更新されることになり、各町内部署の保健補導員が町内部署を通じて配付にあたっては、

なにお今後保険者証を紛失したり汚したりしないよう、ていねいにお使いくださるようお願いいたします。

住民登録の調査について

この調査は住民基本台帳に基づいて行なわれるもので登録することによって住民の居住関係を確認することに、日常生活の便利を図るものとするものです。

職業訓練

建設機械運転科がはじまります

秋田県では、昨年に引き続き本年も農業以外の他産業へ就職を希望する方に対して、技能を身につけるための職業訓練を行っています。

新保険者証配付のときに返還準備出来なくなった場合は、十月六日まで新保険者証を配付した方、自分で持参してお届けくださるようお願いいたします。

従来の住民登録は行なわれておりましたが、たかく忘れがちとなり、本町に居住しながら登録しないまま、また居住しないで見受けられまなっていることが見受けられますので、この調査を通じて正確な住民基本台帳をつくるためです。

この調査は十月一日より役場住民課職員が皆さんのお宅を訪問して行いますので、その節はよろしくご協力下さるようお願い申し上げます。

職業訓練

鷹巣専修職業訓練校、一回定員10名、内容は、大隈特殊車(ブルドーザー、ショベルローダー)の運転、施行簡単なガス溶接の技能。

受講者の特典
訓練受講者には、月額三万円程度、訓練手当が支給されます。

希望者は産業課の方へお申し込みにください。
窓口に老眼鏡セット
ご利用ください
住民課では、窓口に来るご年配の皆さんに不便をかけないために、老眼鏡セットを備えつけたことになりました。

カゼの季節です

夏かぜはオニオニ食わないといわれ、近頃は年中かぜがはびこっています。特に寒さとかぜは深い、仲にありまます。年中かぜをひいて、なおりますと思えはまはたすべく、こんなことをくり返し余病をおこしている人が多し。

特にインフルエンザは、かぜの中でも症状はげしく流行力が強く、広い範囲に大流行を起します。この原因はインフルエンザウイルスによっておこる全身性感染病的病気が、A・B・Cなどの型があります。

「症」一状
一日一二日の潜伏期のち、さ

「家庭での注意」

安静保温充分な栄養水分の補給も必要です。又肺炎に注意しなければなりません。予防注射が有効です。

予防注射の効果は一週間からあらわれ、二週間で最高に達し、およそ一ヶ月間その状態が続いてその後だんだん低下します。なおインフルエンザは症状は強いですが、経過は一併に良好ですが、ときに肺炎など合併しやすいので充分注意しましょう。

「赤い羽根」

共同募金のおねがい
毎年のことで本当に恐縮でございますが、来たる十月一日から全国一斉に「赤い羽根」共同募金運動が始まります。

この金はご承知のように老人ホーム精養軒(若)施設、養護施設母子寮保育所等に主として使われますが、今年度は昨年より一割増の目標額となっております。

ごみ収集ポリ袋

「規格」変更について
今まで使用していたごみ収集用ポリ袋の在庫が少なくなってきたので、この機会にかねて要望のあった点を中心に、先般婦人団体代表の会合を開いて充分に検討し、その規格を一部変更することにしました。

それは、今までの中四センチメートルを五センチに、長さ七センチに厚さ〇・〇四ミリに、更に透明であったものを緑地に変更します。

なおご承知の通り昨今ポリ製品の不足(原料不足等)でその確保を心配していたが、なんとお相当量の確保に見通しがついて現在発注しておりますが、印刷が出来るのが二カ月先になりますので、或いは暫時無印刷のものを使用願うこともありますし、いつから使用するかと申すことも販売店の在庫と住民の購入の関係を、期日を明確に出来ないが、販売店から購入したらそのまま使用していただく。

「赤い羽根」

共同募金のおねがい
毎年のことで本当に恐縮でございますが、来たる十月一日から全国一斉に「赤い羽根」共同募金運動が始まります。

この金はご承知のように老人ホーム精養軒(若)施設、養護施設母子寮保育所等に主として使われますが、今年度は昨年より一割増の目標額となっております。

ヤング登場



煙町 荒川 達夫

レニングラード
までの思い出

今度秋田県青年海外研修に参加する機会にめぐまれた私は、大の中らレニングラードまでの思い出を語ってみよう。
まず、今回の研修団の中でも若い方であり、今日まで数多くのスポーツを続けてきているだけに、体力的には絶対の自信を持って研修に臨んだのだが、その体調が大きく狂ってしまった。
日本を離れて三日目、初めての飛行機「プロムラ」近くの座席であったせいか、レジンンの音で非常に高くなるが、それでもいつの間にか眠ってしまった。ハバロフスクからモスクワまで九時間余、昼すぎに離陸したのである。七時間の時差があるわけで、生まれて最高に昼の長い一日であった。この頃は体がだるく感じ、頭が重くなってくる。それと平行して肝心の食事が思うように進まない。最初の頃はパン食も、その気になれば結構なものなど冗談交りに楽しめ、モスクワに到着からは完全に参ってしまった。
厚い牛肉もナイフつかえる気もおきないし、たまに口に合うものといえはトマト、キュウリといった生野菜ぐらいだっただ、誰かが言った。「グラム島の横井さんか。こんなにも多くの食べ物があつたのになぜ食べない。それはわがままと云うものことに反論するものはいなかった。体調不調のままの研修日程は、非常に苦しかった。その中で、フオーズ(国営農場)見学の際もぎたてのトマト、キュウリを思いっきり食べた味は今でも忘れられる。進められるのをい、このトマトをバック一杯につめ込み、今後のスナクとして持ち帰ったのである。この夜、我々はレニングラードへ向う夜台列車の中で、一本のシャンペンで既仲間十名が、モスクワよさよならと乾杯した。

そんな時、仲間からライメン食べようという提案があり、立ちどころに実行に移した。各自が非常袋のライメンが提供された。仲間十人、五の口元を目を光らせながら一時の事であったが、久しぶりに思える日本の味に満足してベッドに入った。

午前八時半。レニングラードの朝は空にはさわやかであった。それにもまして、この朝は体調がすこぶる快調なのである。レニングラードの、遠い日本を思いおこしながら、今国の研修に参加できた喜びを初めて強く感じた時でもあった。うまし国ぞ、秋津島大和の国